

ブッシュ葬儀の謎の封筒と「キャッチ 22」ゲーム理論

(動画)

Greatchain

2018/12/16

これは私の題でなく、ネット掲載された、あるコメント付きの動画の題である。

ところでここ数日、アメリカの（そして世界の）情勢は、風雲急を告げてきた。実は、私はある意味で誤解をしていた。2016年の米大統領選では、圧倒的にトランプが勝つものと思いき、見事にはずれた（個人票では負けていた）。またトランプが「私はワシントン DC から政権を奪って、本来の主権者であるあなた方の手に渡すためにやってきた」と言ったとき、これは誰でも理解するものと思っていた。しかしこれも、ほとんどの民衆が理解しなかった。つまり、自分がどういう国に住んでいるのかを、彼らは知らなかった。（日本人の大多数が、自分がどういう世界に住んでいるのか知らないことと、ほとんど変わらないことに、私は気づかなかった。）

ところが今、世界の人民は、自分たちがずっと騙されていたことに、ついに確信をもち始めたように見える——フランスから始まったヨーロッパの“イエロー・ベスト”運動など。その要因をあげることもできるし——大きなものの一つは、歴然たるカリフォルニア放火——そういう時期に来ていたとも言える。アメリカでは、トランプへの支持というより、むしろ熱狂的な感謝の運動が起こっている。これは、ワシントン DC が自国と自国民に害をなす「純粹悪」であることに気づき、そこからの解放が見えてきたということである。この最も肝心の意識革命が起こったとき、世界は一気に変わる可能性がある。

そこで現在、毎日、目まぐるしく投稿される口頭のニュースや動画を、訳して紹介することはできないので、上の表題の動画と音声コメントを、そのまま借用することにする。かりに英語が全くわからなくても、ここでは本人が「何だろうねえ」と言っているだけだから、同じである。

<https://youtu.be/6M7CDVONqNc>

これは、今月5日に行われた、父ブッシュ大統領の葬儀の式場で起こったことで、式の前か後かもわからない。最初、ホワイトハウス・インサイダーQは、この日に大量逮捕があると言っていたので、それは、はずれたことになっていた。しかし、この葬儀に、米政界トップの要人が、ほぼすべて集まることがわかっていて、この封筒が手渡されたのだとすれば、これは仕組まれたものである。父ブッシュの死そのものも、タイミングを合わせたのかもしれない。ここで何が起きているのか、この封筒に何が入っているのかは、読者が、この者たちの表情から判断していただくしかないが、逮捕状か、逮捕状に類するものかもしれない。封筒のほかにもう一つ、大きなパンフレットがあり、これだけもらった人もある。右端のジミー・カーターには、封筒がないので、「どうしたのだろう」という顔をしている。最初に出てくる、明らかに動揺の様子、あのペドで有名な“クリーピー・ジョー”である。ひときわ大きな男は、ジェブ・ブッシュである。

3,000以上もある読者のコメントから、最初のいくつか紹介しておこう：――

「泥沼の生き物たちが、トランプに向ける憎しみの顔を見ていると、私は彼がもっと好きになる。この封筒はすばらしい手腕を見せた。これ以外のどこで、彼らのすべてが、1つの場所で、これを受け取ることができようか？ トランプは“トロール”（ポーカーフェイス）の王様だ。王様、万歳！」

「私はジミー・カーターが、かわいそうに、なぜ自分は封筒を貰えないのだと思っているのを見飽きることがない。あきらかに彼は、ギャングの一部ではない。」

「もう一つは、“クリーピー”（気味悪い）ジョー・バイデンが、カメラに向かって手紙を広げていることだ（質問の意味？）…これを読む技術はないのだろうか？」

「ははは、クリントンのポーカーフェイスは大したものだ。彼女は慣れているからな。」

「オバマはこの写真では、偉そうにしている。まだ大統領の気であるようだ。この顔を今すぐ、はがしてやりたい。オバマの顔は、〈何も私には応えない〉と言っている。」

「私はトランプ大統領を愛する。神が、彼を導いて我々を再び偉大にし、これら陰謀団たちから我々を、保護してくださるであろう。神よどうか、我々のため、子供のため、孫のため、子孫代々のために、祈る力をお与えください。」

なお、「キャッチ 22」とは、ジョーゼフ・ヘラーの小説からきた、「どうすることもできな

い、逃れられない状況」を指す言葉である。私はこれを、「マクベス」を引いて説明した。